

M01a **高感度太陽紫外線分光観測衛星 SOLAR-C: プロジェクト最新状況 (2025 年春)**

清水敏文, 加藤秀樹, 松本純, 内山瑞穂, 備後博生, 三好航太, 鳥海森, 松崎恵一, 西山万里, 坂尾太郎, 山崎大輝, 峯杉賢治, 太刀川純孝, 田中寛人, 藤原正寛, 末松芳法 (ISAS/JAXA), 原弘久, 勝川行雄, 久保雅仁, 成影典之, 石川遼子, 岡本丈典, 川畑佑典, 篠田一也, 光武正明, 浦口史寛, 都築俊宏, 小原直樹 (国立天文台), 今田晋亮 (東京大), 増田智 (名古屋大学), 渡邊恭子 (防衛大学校), 永田伸一, 浅井歩 (京都大学), 他 SOLAR-C 関連国際開発チーム

高感度太陽紫外線分光観測衛星「SOLAR-C」は、2028 年度打上げを予定し開発中の次期太陽観測衛星であり、日本天文学会、特に太陽研究者連絡会が総力を挙げて取り組む中核観測計画である。プロジェクト最新状況は、2022 年秋季年会 (M38a), 2023 年春季年会 (V242a), 2024 年春季年会 (V227a) の報告にて説明してきたが、今回の報告では前回の報告以降のプロジェクト動向を報告する。2024 年 3 月に高感度太陽紫外線分光観測衛星 (SOLAR-C) プロジェクトチームが JAXA 機構プロジェクトとして発足した。2024 年 6 月に基本設計審査 (PDR) が結審し先行開発を進める極紫外線高感度分光望遠鏡 (EUVST) の望遠鏡部および望遠鏡電気箱に加えて、各海外機関が提供するコンポーネントの PDR が進められている。また、衛星バスを中心とした衛星システムの基本設計が進められ、2025 年 1-3 月に衛星システムメーカー主催の PDR が予定されている。EUVST は日本の望遠鏡に対して海外機関コンポーネントを組み合わせることで、科学が要求する観測機能・性能が実現される。イプシロンロケットの搭載上限 (600kg) に合致する衛星総質量の確実な実現、増加する開発コストの抑制、スケジュールの維持、海外機関との技術調整での課題等に対応しながら、プロジェクトを推進している。なお、技術的およびプロジェクト推進上 JAXA 等各部門関係者から支援・協力を受けており、ここに感謝する。